NO.12
金光図書館通信
2020.5

ミニ

金光図書館は あなたの サポーターです。

KONKO　Library

〒719―0111　岡山県浅口市金光町大谷 320
☎０８６５－４２－２０５４　fax０８６５－４２－３１３４
konko-library@konkokyo.or.jp
http://www.konkokyo.or.jp/konko-library
ブログ　http://ameblo.jp/konko-kyouco/

金光図書館は、ご自宅から
お電話・Ｆａｘ・インターネットなどで、
全国どこからでも本を借りることができます。

新型コロナウィルスの感染拡大で、不安な日々をお過ごしかと思います。また、金光図書館の利用につきまして、大変ご不便をおかけしております。

先日、ある作家さんが、「毎日、テレビやネットを数時間以上見ていると奇妙な徒労感が残る。しかし、本を何冊か読んでいると元気がわいてきた。こういうとき人々に元気を与えるのが本なんだ」と雑誌に書いていました。

本は、自分を支え、心に寄り添ってくれるものだと思います。
ゴールの見えない不安と、どこに向けていいか分からない怒りを治める一つの手段として、読書がある生活をしてみてはいかがでしょうか？

金光図書館は、来館しなくても、だれでも登録・利用ができます。こんな状況だからこそ金光図書館を身近に、生活の中に取り入れていただけたらと思います。

本は郵送でお届けします（片道送料負担）。
ご希望の方は、電話やＦａｘ、メールなどでご連絡ください。

どうぞ、金光図書館を
教会・ご自宅の本棚のように
ご利用ください。

インターネット予約を やってみませんか？

図書館ＨＰ（ホームページ）から本の検索、予約ができます。
もちろん、電話、メール、ＦａｘでもＯＫ！

インターネット予約をご希望の方は、
仮パスワードを発行いたします。
お手数ですが、当館までご連絡ください。
電話：０８６５－４２－２０５４、
メール：konko-library@konkokyo.or.jp

誰でも、どこにお住まいでも、借りられます！
送料は、返却時のみのご負担をお願いします。

教話ＣＤは、定時のご祈念後の教話として活用されていることもあります。

文字が小さいと感じる方や、本が読みにくい方には朗読ＣＤや教話のＣＤもございます。

利用者のご登録も、お電話、Ｆａｘなどでお申込みできます。

おススメの本

【一般書】

「世界一わかりやすい新型コロナウイルス完全対策ＢＯＯＫ」　寺島毅・監修

「新型コロナウイルス 正しく怖がるにはどうすればいいのか」　木村良一・著

「花になるらん明治おんな繁盛記」　玉岡かおる・著

「天、共に在り　アフガニスタン三十年の闘い」　中村哲・著

「孤塁　双葉郡消防士たちの３・１１」　吉田千亜・著

「エンド・オブ・ライフ」　佐々涼子・著

【金光教図書】

本との出会い

藤井茂先生（経理室）と
成田明信先生（布教部）に
お勧めの本を紹介していただきました。

「ことばの素晴らしさを再発見」

経理室　　藤井　茂先生（城崎教会）

小学校の読み聞かせで出会った作品の中から、何冊かを紹介します。

『この人を見よ！歴史をつくった人びと伝１６　宮沢賢治』

（プロジェクト新・偉人伝／編、ポプラ社／刊）

「世のため人のためにすべてを捧げた」と言われる宮沢賢治の生涯を描いた本です。

「雨ニモマケズ」や「銀河鉄道の夜」が生まれたエピソードも紹介されています。

『わたしと小鳥とすずと』（金子みすゞ／著、JULA 出版局／刊）

違った視点で見れば、物事は全く違う景色が見えてくることを感じる、

優しさでいっぱいの詩がつまった心温まる一冊です。

『外郎売（ういろうう）』（齋藤孝／編、長野ヒデ子／絵、ほるぷ出版／刊）

日本語の面白さが詰まった江戸時代の早口言葉の本です。スラスラ朗読できるようになるととても楽しいです。一番後ろの頁に全文が載っていますので、ぜひ挑戦してみてください。

『ま、いっか！』（サトシン／作、ドーリー／絵、えほんの杜／刊）

一見いい加減なテキトーさんの生き方から、どんな大変なことが起きても、

「ま、いっか」と一度、感情をリセットしてみることの大切さを楽しく感じることができる本です。

「未来へつながる読み聞かせ」

布教部　　成田　明信先生（御立（みたち）教会）

図書館通信の原稿依頼をいただいて、母に子供の時に好きだった絵本を尋ねました。さっぱり覚えていないんですが、私は祖父から頂いた「おいしいたべもの」という本が好きだったそうで、特に魚のページを気に入り、毎日読んでもらい、ボロボロになっていたそうです。

今の私が食いしん坊で魚が大好きなことを思えば、たとえ覚えていなくても幼少期に触れた絵本が私に大きな影響を与えていたんだと納得させられました。

今、子どもたちに読んでいる絵本も、いつか忘れられるんだと思います。でも、その絵本たちが彼らの人生に様々な影響を与えてくださるのだと思うと、読み聞かせの時間がとても大切な時間だと思えるんです。

さて、今回ご紹介する絵本は、**『オレ、カエルやめるや』（デヴ・ペティ／文、マイク・ボルト／絵、マイクロマガジン社／刊）**という絵本です。シリーズで他に**『オレ、おおきくなるのいや』**、**『オレ、なんにもしたくない』**があります。なにやら生意気でわがままそうなタイトルですが、実は深いテーマを持った絵本だと思うんです。

「あのさ、おとうさん。オレ、ネコになることにするや。」

そう子どもガエルがおとうさんガエルに言うことからこの絵本は始まります。

だってカエルは濡れてるし、ヌルヌルしてるし、虫を食べるし（おいしいけど）と自分の“いや”な部分を理由にして、ウサギになりたい、ブタになりたい、フクロウになりたい、と自分じゃないものをもつ何かにあこがれる子どもガエル・・・

おとうさんガエルはそんな息子を諭しながら、「なんで？」に真剣に向き合い、「カエル」という自分自身の存在を肯定していきます。無限の可能性を信じる子どもと、現実を教えたい親とのギャップがポップに描かれていて、親子でマネしながら楽しく読める絵本です。

今の時代は、自分自身を信じて認めていくことができず、他人の評価ばかり気にしてしまうような人が増えていると聞きます。子どもたちが、ありのままの自分を信じて、大切でかけがえのない存在だと思えるように、自分を好きでいれるように、そんなことを願いながらこの絵本を読んでいます。

ぜひ、お読みください！